

1-2-6 県指定・前田家

〈県指定〉昭和50年7月17日

〈所有者〉高山市

〈所在地〉上岡本町1丁目590番地 飛騨民俗村構内
(旧所在地 吉城郡上宝村^{かんざか}神坂)

〈時代〉明治32年(1899)

〈員数〉1棟

主屋(1棟)桁行19.5m、梁間11.8m、切妻造、板葺、2階建、西面下屋付属、東北面庇付属、板葺

前田家は、上宝村で1、2を争う豪農であり、構えが大きく意匠も形態も優れている。建物は、栃尾温泉の東、穂高連峰の西山麓に抱かれた蒲田川沿いの神坂にあった。明治32年、高山の大工によって建てられたもので、人も馬も、1つの入口から出入りする特殊な形をしている。

内部は、入口「ドウジ」に入ると正面に「マヤ」がある。左手には「エン」があつて、「オエ」、「六ツデイ」に通ずる。右手は、便所、水屋、「ニワ(ダイドコ)」へと通じている。「六ツデイ」は、戸を全部はずすと42畳として使える広い部屋となる。「六ツデイ」のうち奥の2間は、「オクノデイ」、「ブツマ」で、床の間と仏壇があり、間仕切りの鴨居上には、特徴的な^{おさらんま}箴欄間が立てられる。

2階へは「ニワ」から階段で上がり、2階は間仕切りがなく、養蚕ができるようになっている。天井は、中央のオエが^{すのこ}簀子天井、座敷部が棹縁天井、他は根太天井である。

外観は、町家風に小庇をつけ、1・2階ともセガイ造りとし持送りで支える。角柄窓があるのも、農家としては珍しい。大きな庇屋根は、片流の上部を折り曲げた招き屋根となる。正面の犬走りは、長大な石を旧所在地からわざわざ持ち込んで敷き並べている。

昭和45年11月から翌年6月にかけて、民俗村構内に移築された。

参考文献

『高山の文化財』41～42頁 高山市教育委員会発行 平成6年